

親のやる気 子のやる気

〇〇56



大震災から7週間が過ぎ、大型連休を迎えました。今年はやはり、しんみりとした雰囲気の中で過ぎたような気がします。

毎年この時季、中3の公民の授業では祝日について話をします。「昭和21年11月3日に日本国憲法が公布、翌

つまずき

年の5月3日に施行されました。だから11月3日は文化の日、5月3日は憲法記念日。法律の変更はルールの変更だから半年前に発表するというのがポイントで…。昔、大型連休は「飛び石連休」と言っていました。しかし、最近の子どもたちは連休2日が当たり前ですから、連休や祝日にはほとんど興味を示しません。

また、中1の地理で

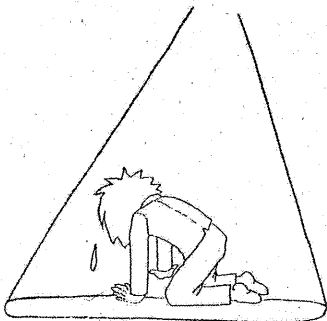
ゆとり重視 問題先送り

は、世界地図を開きながら「経線、緯線：地図は原則として北を上とし…」などの話をします。しかし「東西南北」が言えなかったり、笑い話ではなく「西から昇ったお日様が東に沈む」と答えたりする子が少なくない。最近の教室では、いかに子どもたちの関心意欲を引き出すかが本当に難しくなっています。

先日の夜は中2の英語がありました。落ち着いた雰囲気の中、次から次へと私のもとにテキストと塾ノートを見せに来る子どもたち。その中に、連休明けに学校でテストがあった。別の中2男子は、「必死に練習して臨んだ学校の英語のテストで不合格でした」と目を見せに来る子どもたち。涙を浮かべて相談に来ました。答えを見る

世代間で質、量異なる学力

ち。その中に、連休明けに学校でテストがあった。別の中2男子は、「必死に練習して臨んだ学校の英語のテストで不合格でした」と目を見せに来る子どもたち。涙を浮かべて相談に来ました。答えを見る



by yoriko

と「don't know」でつまづいていました。私は読みませました。探りながら頑張っている。子の親とは異なる時代を、親の喜ぶことを探ります。子どもの学力は親の世代と子の世代で異なります。質も量も大きく異なっているのです。この世代間の食い違いを、一つ一つ見つけ出し、積み重ねた先にこそ、子どもたちの未来の姿が見えてくるはず。私（畑山篤志 志学塾塾長）

教育

安全科学

安全教育で「大人」に

完

う」と呼び掛けるだけでなく、次代の子どもを育む大人が

む

「教育的」対応が取られていない。育を表現させていくべきです。①自分がした

力③最善の選択ができる力を備えているが「大人」。これらつる力は現実的に得られるべきもので、体験学習が必須な

主体性の